

平成21年2月

# 藤原義和 学位論文審査要旨

主査 池口正英  
副査 久留一郎  
同 西村元延

## 主論文

Inhibition of experimental abdominal aortic aneurysm in a rat model by the angiotensin receptor blocker valsartan

(アンギオテンシン受容体拮抗薬バルサルタンによる大動脈瘤増大抑制効果—ラット腹部大動脈モデルを用いた検討)

(著者：藤原義和、白谷卓、三宅隆、山川智、青木元邦、牧野寛史、西村元延、森下竜一)

平成20年 International Journal of Molecular Medicine 22巻 703頁～708頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

腹部大動脈瘤の形成及び進展には、大動脈壁内での動脈硬化による炎症反応とそれに伴う細胞外マトリックスの変性が関与していると考えられている。本研究は、アンギオテンシンⅡが動脈壁内での炎症を惹起し動脈硬化を促進させる因子であることに着目し、アンギオテンシンⅡ受容体を拮抗阻害することにより動脈瘤の形成、拡大を抑制しうるか否かについて、ラット腹部大動脈瘤モデルにアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬の一つであるバルサルタンを投与することにより検討したものである。その結果、バルサルタンがアンギオテンシンⅡ受容体を拮抗阻害することにより、NFκBの不活化を介した抗炎症作用を発揮し大動脈瘤の進展を抑制することが示された。本論文の内容は、腹部大動脈瘤に対する新しい治療法の可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。